

# 北大阪健康医療都市のまちづくり

---

---

吹田市 健康医療部  
北大阪健康医療都市推進室

平成30年11月

- 1 まちづくりの歴史
- 2 まちの基盤整備
- 3 まちのコンセプト
- 4 各エリアの進捗状況
- 5 健都レールサイド公園
- 6 今後の展望

# 1 まちづくりの歴史

2

## 吹田操車場跡地の歴史

- T12. 7 吹田操車場操業開始
- S59. 2 吹田操車場機能廃止
- S62. 4 国鉄分割・民営化  
梅田貨物駅機能を吹田  
操車場跡地に全面移転  
する計画が示される。

吹田操車場操業当時



現在の貨物ターミナル駅



- H9. 6 移転する機能を1/2に縮小し、まちづくり可能用地の拡大を申し入れ
- H11. 1 梅田貨物駅の吹田操車場跡地への移転計画に関する基本協定書・同確認書を締結
- H17. 11 吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業に係る環境影響評価報告書を提出
- H18. 2 吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業の着手合意協定書を締結
- H19. 11 吹田操車場跡地地区（仮称）の整備に関する基本協定書を締結
- H20. 7 道路及び土地区画整理事業の都市計画決定
- H21. 4 UR都市機構が土地区画整理事業の事業認可を取得
- H25. 3 貨物ターミナル駅の開業

3

# 吹田操車場跡地から北大阪健康医療都市へ（名称及び愛称の決定）

## 名称

# 北大阪健康医療都市

Northern Osaka Health and Biomedical Innovation Town (NohBIT)

## 愛称

# 健都（けんと）



北大阪健康医療都市

# 健都

シンボルマーク・ロゴ

### 【選定理由】

- ◆ 健康医療都市の略であり、誰にでも分かりやすくシンプル。
- ◆ 循環器病予防に必要なKnowledge（正確な知識、知の集積）、Exercise（適度な運動）、Nutrition（適切な栄養・食事）とTown（まちづくり）の頭文字を並べたもの（KENTO）。

4

## 北大阪健康医療都市の位置



5



## 2 まちの基盤整備



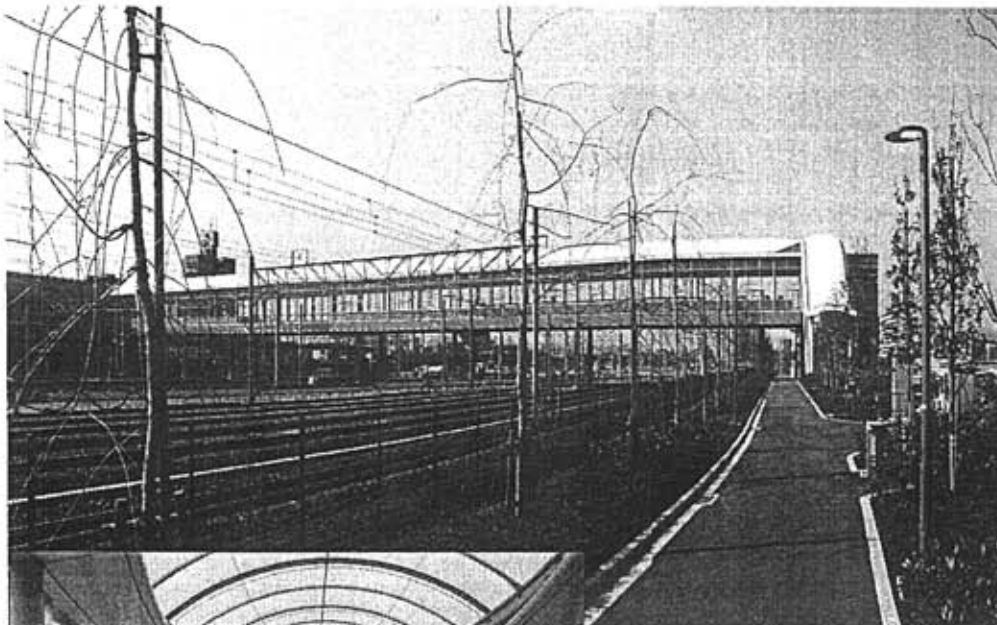
①JR岸辺駅橋上化



①JR岸辺駅橋上化



## ②南北自由通路



(緑の遊歩道からみた  
南北自由通路)



(内部の様子)

- 施工者  
鉄道・運輸機構
- 目的  
南北分断の解消  
併せて駅の橋上化
- 完成時期  
平成25年9月末
- 全長：約180m
- 幅員：6m 中央部：8m
- 膜屋根
- 土地の名残  
登り窯風のエントランス  
土色のタイル壁  
モニュメント

12

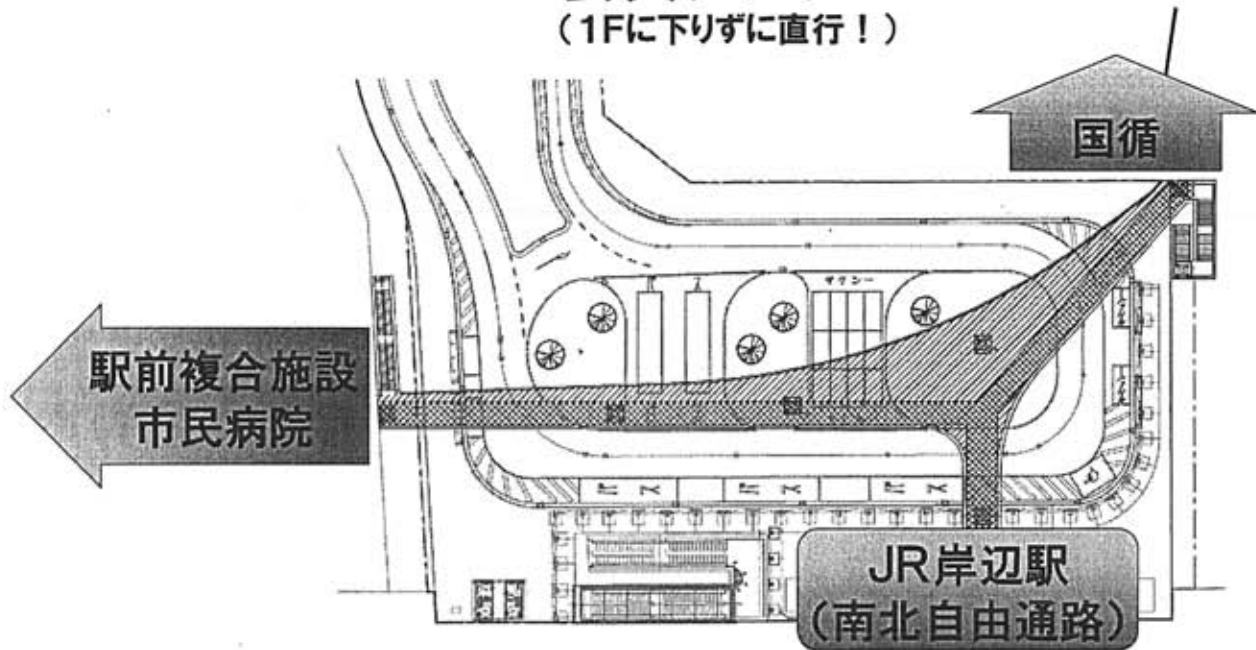
## ③岸辺駅北交通広場



- 施工者：UR都市再生機構
- 面積：約5600㎡
- 土地の名残  
枕木風の横断防止柵  
操業時の線路
- まちの玄関口
- 膜屋根
- 完成時期：平成24年4月
- バリアフリー対応の舗装

13

## 公共デッキ (1Fに下りずに直行！)



14

## ④ 岸辺駅南駅前広場



- 施工者： 吹田市
- 再整備目的： 新たに整備される岸辺駅北交通広場との機能・役割を分担
- 完成時期： 平成27年3月末
- 面積： 約4000㎡
- 整備内容： 歩道拡幅、車道改修（一方通行化）、地下道階段改修など

15

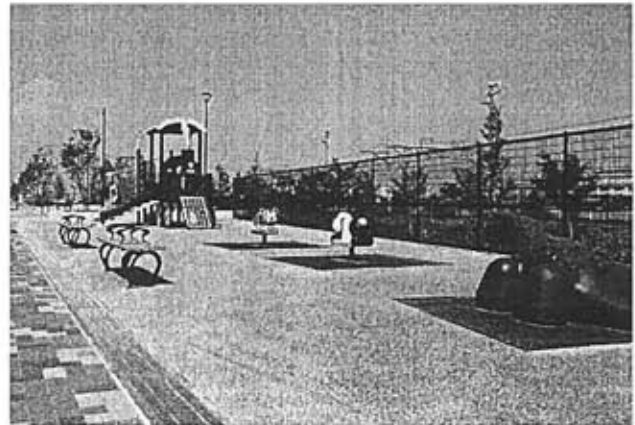


## ⑤ 緑の遊歩道

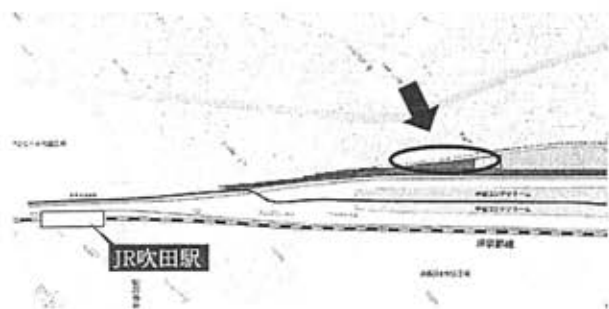


- 施工者  
鉄道・運輸機構
- 目的  
環境対策（緩衝緑地帯）
- 完成時期  
平成26年3月末
- 全長：東西約3kmの内  
吹田市：約2km
- 全幅員：12m 歩道：3m
- 歩行者専用
- 7種類の桜

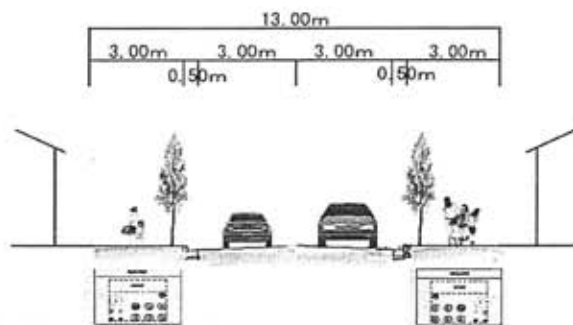
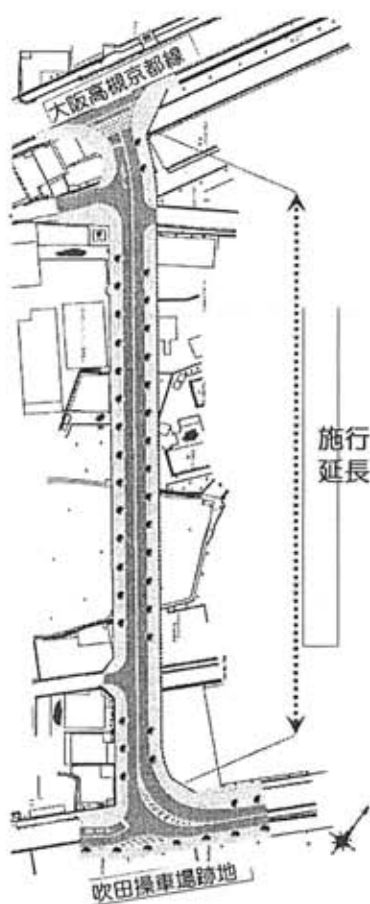
## ⑥ 健都レールサイド公園（土の広場）



- 施工者 吹田市
- 完成時期 平成27年8月
- 整備内容  
複合遊具、スイング遊具、  
ベンチ、水飲み場
- ※ 用地は、土地区画整理事業で確保



## ⑦天道岸部線



施行区間  
延長203m 幅員13m

- 施工者 吹田市
- 完成時期 平成27年度末（左図部分は平成26年度末）
- 整備内容 道路築造工事  
電線類地中化（電線共同溝整備）

18

## ⑧正雀川緑道



- 施工者：吹田市
- 目的  
緑の遊歩道と  
都市計画道路との接続
- 完成時期：平成26年3月末
- 延長：約100m
- 全幅員：18m  
緑道：14.5m  
自転車歩行者道：3.5m
- 整備内容  
廃瓦コンクリート舗装  
里山をイメージした樹木  
せせらぎ（枯れ流れ）

※市域境界の地下河川の上부를緑道として活用

19

### 3 まちのコンセプト

#### 北大阪健康医療都市の「健康・医療」のまちづくり



【位置図】



#### まちづくりの概要

- 平成21年から誘致を続けてきた国立循環器病研究センターが、平成25年6月11日に、北大阪健康医療都市への移転を決定。
- 同地へ市立吹田市民病院の移転や医療関連企業・研究機関を誘致・集積し、国際級の医療クラスター（複合医療産業拠点）を形成する等、「健康・医療」のまちづくりを推進。

#### 中心街区のイメージ図（移転建替後）



# 吹田市「健康・医療のまちづくり」基本方針の概要



(平成26年5月策定)

## 基本的な考え方

国立循環器病研究センターの吹田操車場跡地への移転等を見据え、医療費の多くを占め、重度の要介護状態に直結しやすい循環器病について、**予防医療や健康づくりの推進、市民参加型の取組のモデルの創成など、様々な取組を推進。**

## 現時点で考える具体的な取組例

- ① 国立循環器病研究センターが行う予防医療の取組に対して支援を行うとともに、同センターとのコラボレーションによる効果的な健康施策の検討。
- ② 民間活力を活かしたコミュニティビジネスという形も含め、地域の方々が「予防」と、「生きがいづくり」や「就労」を兼ねて主体的に参加するモチベーションがわくような施策の検討。
- ③ 吹田操車場跡地に開発される駅前複合施設に入る商業テナント等と連携したこの地域ならではの健康関連施策の検討。

## 取組の推進により目指すもの

- ① 予防医療や健康づくりの推進により、**市民の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の延伸**を図る。
- ② 健康寿命が延伸した高齢者等の生きがいづくりや、その力を活用した**地域活性化**を進める。  
これらにより、健康・医療のまちづくりの「吹田モデル」を先進例として示し、世界をリードする健康都市を目指す。

## 具体的な内容の検討

健康・医療のまちづくりを関係者全員の協働により推進していけるよう、医療関係者と関係行政機関で協議する会議を立ち上げ、市民や企業の声を聴きながら、具体的な内容を検討。

22

# 吹田操車場跡地まちづくり実行計画の概要



操車場のあるまちから、健康寿命の延伸をリードするまちへ  
～ つながる ひろがる ひと・まち・みらい ～

(平成27年3月策定)

## 今後の方向性

- 吹田市では、健康・医療のまちづくり基本方針(平成26年5月)を踏まえ、国立循環器病研究センター等の特性を最大限に活かし、「**健康・医療**」をコンセプトにした新しい形のまちづくりを推進
- 加えて、東部拠点のまちづくり計画(平成21年3月)等を踏まえ、「**環境・緑**」、「**都市の機能と安心・安全**」、「**質の高い景観や空間**」に留意したまちづくりを推進

### (コンセプト1) 健康・医療

- 国立循環器病研究センター等と連携し、予防医療や健康づくりの推進により市民の健康寿命の延伸を図るとともに、生きがいづくりを進める等、健康・医療のまちづくりの「吹田モデル」を構築する。
- 併せて、医療及び健康関連企業等の誘致を進め、国立循環器病研究センターを中心とする産学官民が連携する国際級の複合医療産業拠点(医療クラスター)の形成を図る。

### (コンセプト2) 環境・緑

- 先進的な低炭素社会の実現と豊かな緑、人と自然が共生しつつ、地域と調和した、快適で健康なまちを目指す。

### (コンセプト3) 都市の機能と安心・安全

- 誰もが安心・安全に移動し、多世代が集い憩い交流する都市機能の整備を図る。そして、災害時には本市南部地域における防災拠点として災害援助を発信する機能を新たに創出する。

### (コンセプト4) 質の高い景観や空間

- 周辺地域に配慮しつつ、テーマ性を持った街並みの形成を図り、質の高い統一感のとれた景観を誘導する。23

吹田市の関連施策

関連する方針

● 吹田市「健康・医療のまちづくり」基本方針（2014）

「市民を中心にまちぐるみで循環器病を防ぎ、元気で長生き！」  
 - 市民の健康寿命の延伸、健康・医療のまちづくりの「吹田モデル」

● 吹田操車場跡地まちづくり  
 実行計画（2015）

操車場のあるまちから健康寿命の延伸をリードするまちへ～つながるひろがるひと・まち・みらい～  
 - 「健康・医療」、「環境・緑」、「都市の機能と安心・安全」、「質の高い景観や空間」の4つのコンセプトのもと、まちづくりを実行

● 吹田市まち・ひと・しごと  
 創生総合戦略（2016）

- ・「生涯活躍のまち」（健都版C C R C構想）の取組
- 高齢者向けウェルネス住宅の整備
- 健康・生きがいづくり等の環境整備
- ・健康・医療産業の創出
- 健都における企業誘致、研究開発の支援

● 国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成の基本的な考え方（2014）

- 循環器病の予防と制圧
- オープンイノベーション
- 国際級の複合医療産業拠点の形成

● 北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりに関する考え方について 中間報告（2015）

- 生活習慣病予防・健康づくりに関する先進的なモデル地域の形成
- 地域医療の質の向上等に資する取組の推進

● 「健康・医療のまちづくり加速化プラン」（2017）

取組の進展を踏まえた健都ならではの先駆的な健康づくり・生きがいづくり創出のためのプランへ

「北大阪健康医療都市 健康・医療のまちづくり加速化プラン」

各事業主体や医療・健康関連企業・研究機関、大学、地域住民等が連携しながら、健都ならではの先駆的な健康づくり、生きがいづくり等に関する効果的な連携が展開される環境づくりを推進。

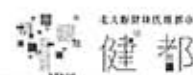


上記を実現する健都のまちづくりの基盤づくり  
 (連携体制、ICT基盤、交流の場、動機づけ(インセンティブ)の仕組みなど)

## 4 各エリアの進捗 (平成30年11月時点)

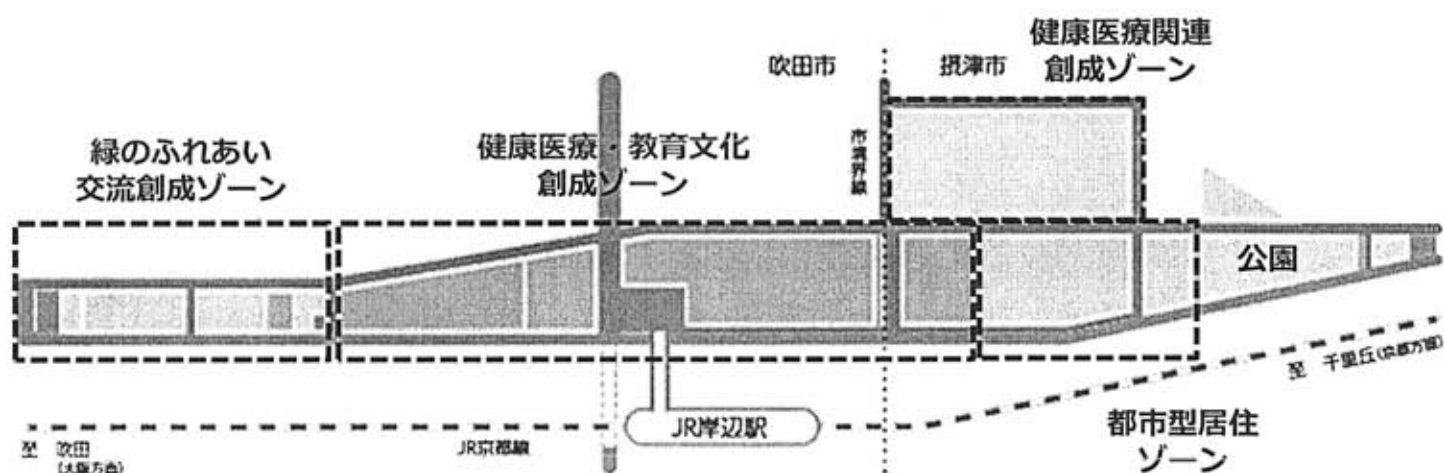
26

### 北大阪健康医療都市（健都）のゾーニング



- 健都は、各ゾーンにおいて「健康・医療」の要素を散りばめた事業を展開。
- 相互に協力・連携・支援することで、まち全体として、相乗的な付加価値が向上。

＜ JR東海道本線沿線で、総計約30haの大規模プロジェクト ＞

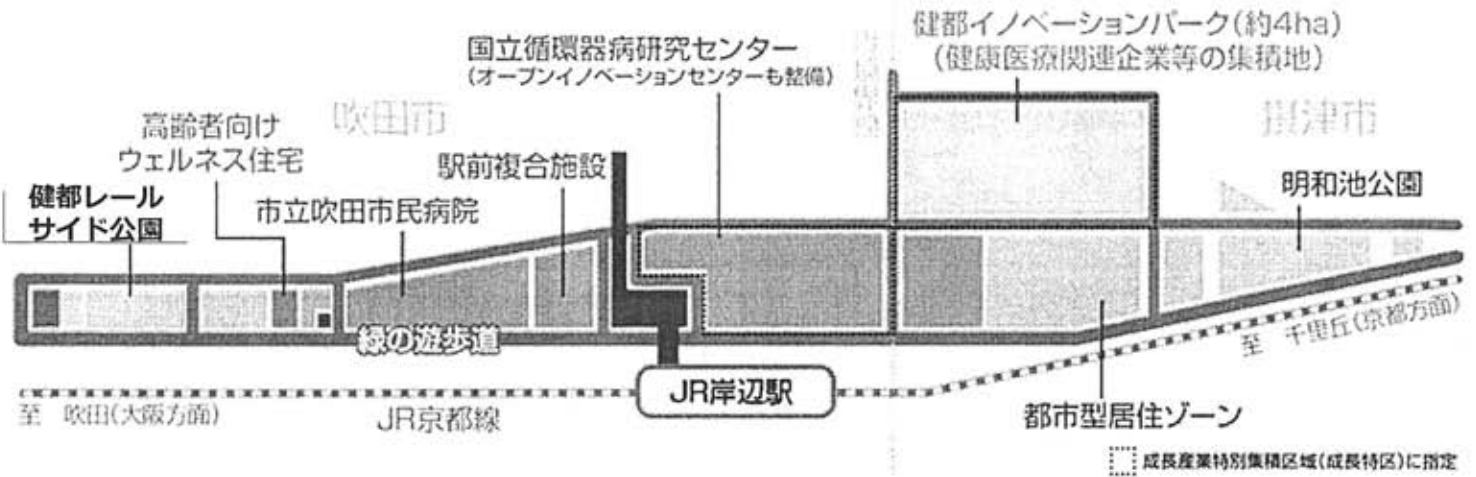


# 北大阪健康医療都市（健都）のアウトライン



- 健都は、各ゾーンにおいて「健康・医療」の要素を散りばめた事業を展開。
- 相互に協力・連携・支援することで、まち全体として、相乗的な付加価値が向上。

＜ JR東海道本線沿線で、総計約30haの大規模プロジェクト ＞



2017年度 (H29)	2018年度 (H30)	2019年度 (H31)	2020年度	2021年度
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2018春 公園Open</li> <li>● 2018秋頃 市民病院 駅ビルOpen</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019.7 国循Open</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年度中 健栄研 移転開始</li> <li>● 2019.12 丸林住宅 入居開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2020.11 ライブラリ Open</li> <li>● 2021年度中 ニプロOpen</li> </ul>

## 国立循環器病研究センター（新センター）

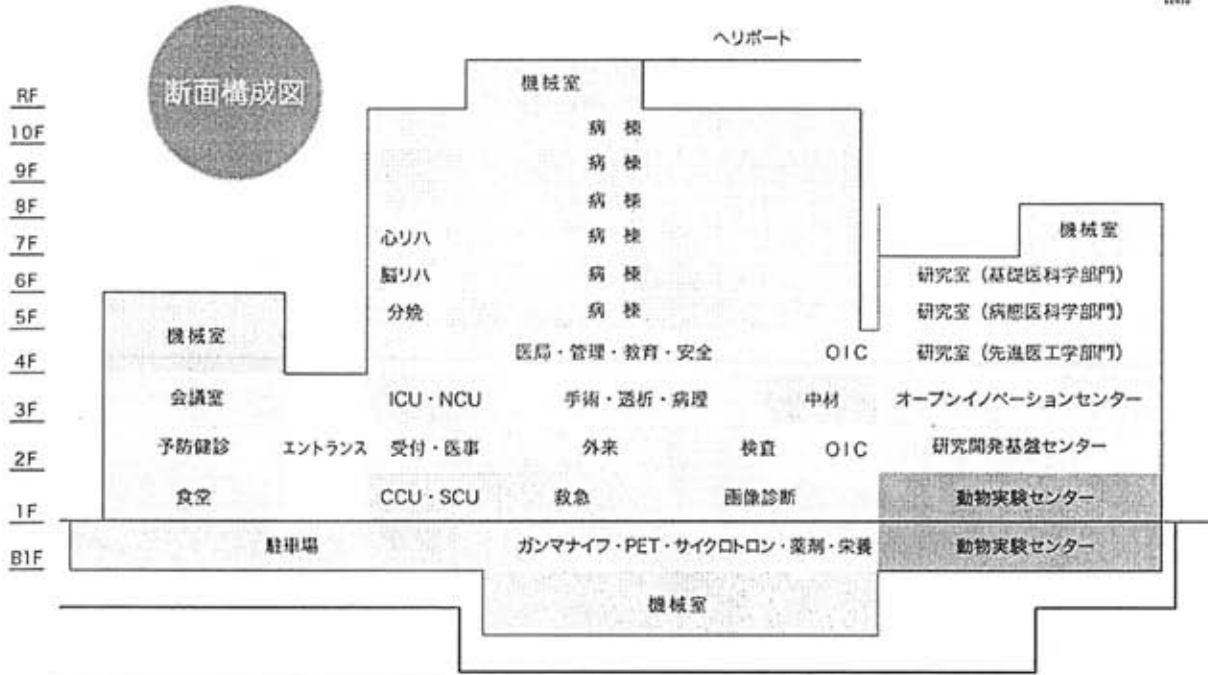


- 循環器病克服のための拠点として設置された、「循環器」を対象とする唯一の高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）。 ※我が国2番目、西日本唯一
- 「病院」「研究所」「研究開発基盤センター」の3部門からなり、これら3部門を一体として運営。
- 平成31年(2019年)7月 新センター運用開始予定

＜新センター（イメージ）＞  
 ・病床数：550床  
 ・階数：地上10階、塔屋2階、地下2階



# 国立循環器病研究センター（新センター）



# 市立吹田市民病院（新病院）

- 急性期医療や高度医療、救急医療を中心に、吹田市の中核病院としての役割を担う。
- 救急医療の充実のため、救急病棟8床を新設、ICUを2床→4床に増床。また、一般病床の一部を回復期リハビリテーション病棟(45床)に転換し、急性期から回復期までの手厚いリハビリテーションを実施。
- **平成30年（2018年度）12月1日病院移転、同月4日外来診療開始予定**

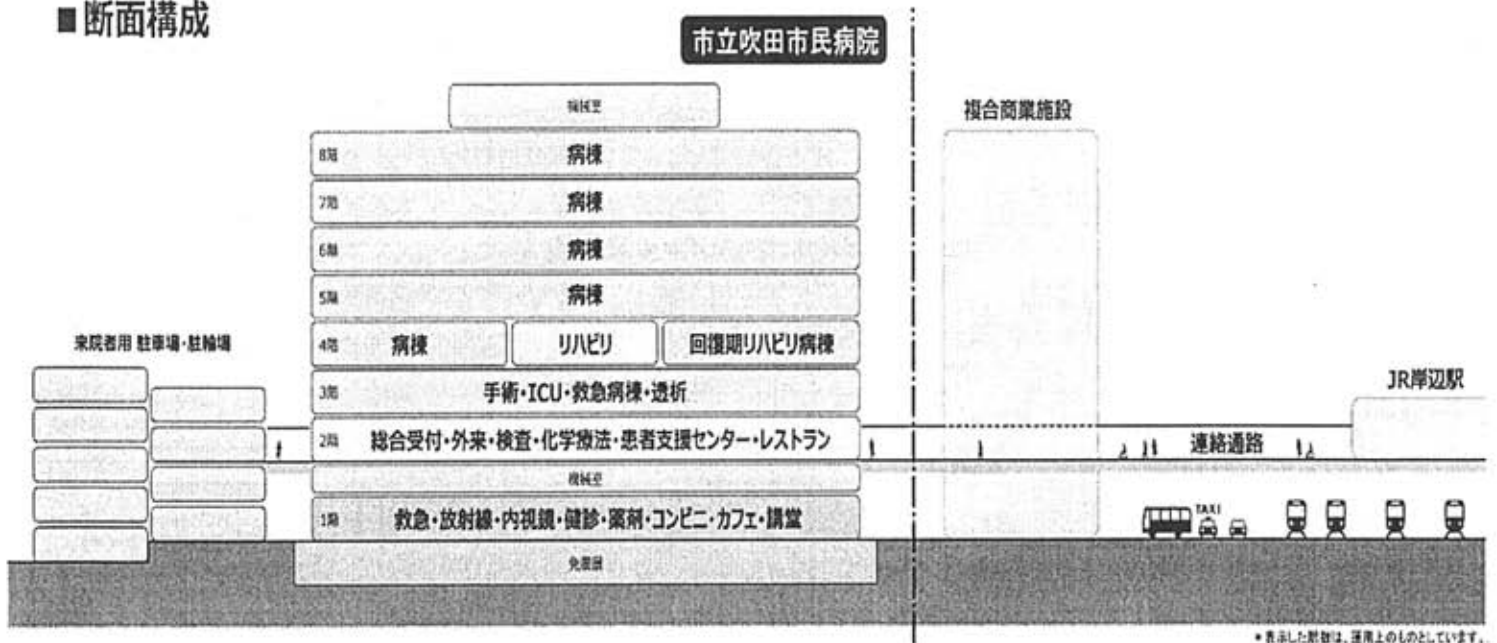
## ＜新病院（イメージ）＞

- ・病床数：431床(変更なし)
- ・階数：地上8階





■ 断面構成



国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成に関する  
基本的な考え方【概要】

国立循環器病研究センター作成資料より抜粋

基本理念

- ① 地域に密着しつつ、ナショナルセンターとしてのミッションである「循環器病の予防と制圧」の拠点を目指す。
- ② オープンイノベーションにより、最先端医療・医療技術の開発で世界をリードする。
- ③ オープンイノベーションに連動したエリアの産業活性化により、国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）を形成する。

特に留意すべき事項

- ① 本事業を国家プロジェクトとして位置づけ、中央省庁、経済界、アカデミア等からの幅広い支援が得られるものにする。他方、地元の住民・医療関係者・商工事業者等からの理解と積極的な協力・参画が得られるようにする。
- ② 本事業を効率的・計画的に推進するために、国循、地元自治体、UR等における役割分担を明確化し、工程管理を行う。
- ③ 循環器疾患分野に関する機能集積を目指す本地域と、他の関西地域（うめきた再開発地区等、京都市内地区、神戸医療産業都市等）との役割・機能分担を明確にしつつ、関西圏全体の医療産業集積の底上げ・ネットワーク強化を図る。

基本理念	具体的事項
① 循環器病の 予防と制圧	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健康寿命の延伸を目指した予防医療(健康増進を含む)への取り組み                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域医療関係者、行政、企業と連携した先駆的な循環器病予防モデル事業の実施</li> <li>・ 効果的な予防医療の確立と医療関係者・研究者・市民への教育・啓発 など</li> </ul> </li> <li>○ 最先端医療・医療技術の開発と普及への取り組み                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界に先駆けて医療技術の臨床開発を実施し、日本初の革新的な医薬品・医療機器を創出 など</li> </ul> </li> <li>○ バイオバンクやコホート研究、疾患登録等による膨大な医療情報(ビックデータ)を集積・解析し、「予防と治療」のその先にある「先制医療」を実現</li> </ul>
② オープン イノベーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最先端医療・医療技術の開発のための産学官の連携によるオープンイノベーションを展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床現場のニーズと先端的研究のシーズのマッチングや事業化支援等を専門家が行う「先端医療創出センター(仮称)」の設置</li> <li>・ 様々な大学・研究機関や製薬・医療機器メーカー等の研究者・技術者が集まる共同研究拠点の集積 など</li> </ul> </li> <li>○ 優秀な研究者・技術者の受け入れと国循ブランドの海外展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーニングセンターを活用した国内外の医療関係者に対する研修や国循ブランド(医療機器等)の海外展開</li> </ul> </li> </ul>
③ 国際級の 医療クラスター の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国循の周辺に企業・大学・他の研究機関等との共同研究拠点、健康関連産業、商業施設等を誘致</li> <li>○ 新大阪駅に近接し、JR東海道線上の駅から直結しているという好立地条件を生かして、国内外から多くの人が集まるまちづくりを行う。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外から「医療・健康づくりのメッカ/フロントランナー」と呼ばれるようなまちづくりを目指し、国内外に発信。</li> <li>・ 医療・健康と結びついた魅力的な観光資源(最先端医療・研究の見学コース、子供を含めた体験型施設、健康に良い食事の提供等)を確立。</li> </ul> </li> <li>○ 関西の経済活性化や地域雇用の創出にも貢献                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家戦略特区や国際戦略総合特区の指定・編入を受け、税制・予算上の優遇措置や規制緩和の特例措置</li> </ul> </li> </ul>

循環器疾患分野の予防・医療・研究で世界をリードする地域に

## オープンイノベーションセンター(OIC)の活用に向けた取組み

### 基本的考え方

H29.7 医療クラスター形成会議  
国立循環器病研究センター作成資料

**基本理念** : オープンイノベーションにより最先端医療・医療技術で世界をリード

### 企業等の共同研究の拠点として、センター内に“OIC”を設置

- ▶ オープンイノベーションを実現するための重要なツールとして活用
- ▶ OICを活用する共同研究は、研究テーマを設定のうえ原則公募し、幅広く企業等との連携をめざす

### 具体的な取組

包括連携	<p>▶ <b>共同研究テーマの探索・検討</b></p> <p>① 企業との連携協力に関する包括協定の締結 国循と企業との相互交流等を加速することができるよう、連携の具体策(研究開発・実用化に関する連携協力、OICの活用など)を検討 【締結先】 東芝メディカルシステムズ株式会社 &lt;平成28年9月20日&gt; GEヘルスケア・ジャパン株式会社 &lt;平成29年3月30日&gt;</p> <p>② サウンディング調査の実施 企業ニーズ等の的確な把握のため、OIC活用を念頭においた研究テーマを募集(平成29年5月)</p>
	<p>▶ <b>国循主導のテーマ設定による包括共同研究の提案募集</b></p> <p>「循環器及び脳血管領域における各種診断・解析装置の開発並びにデバイス評価に関する包括的共同研究・開発」をテーマに、共同研究の提案を募集(平成29年6月)</p>
個別連携	<p>これまでも企業等との個別テーマによる共同研究に取り組んでおり、引き続きこうした取組に加え、OICを活用した共同研究の実施に重点を置いて取り組む</p>

## 概要

- 当該エリアの利用に係る基本方針(土地利用方針、基盤整備方針含む)を盛り込んだ、医療クラスター形成のための基本計画を策定(平成27年3月)。

### <利用に係る3つの基本方針>

- ・最先端の技術開発によりオープンイノベーションの実現を目指します。
- ・また最先端のみならず様々な分野での産学官の共同研究の実施、さらには、製造業のみならずサービス業も含む健康関連産業との連携等を促進します。

国立循環器病研究センター  
にとってオープンイノベーション  
の場であること

#### 基本方針

市民にとって医療・健康  
関連の活動の場である  
とともに、健康寿命の延伸  
に資する場であること

地域企業にとってビジ  
ネスチャンスの拡大に  
つながる場であること

- ・健康寿命の延伸に資するコミュニティビジネス事業者や、最終消費者向けの商品・サービスを提供する企業の研究機能の誘致を目指します。

- ・地域の様々な企業との連携を促進することで、ビジネスチャンスの拡大を図り、医療・健康分野への新規参入等が促進されることを目指します。

### <基本方針に基づくゾーニング案>

#### 研究開発系機能1

- ・原動機や大型設備を有する、または多くの従業員が入り出る等の事業所や研究所が立地するゾーン

#### 研究開発系機能2

- ・オフィス、大学のサテライト
- ・小型軽量の設備を伴う研究所
- ・コミュニティビジネス用オフィスが立地するゾーン

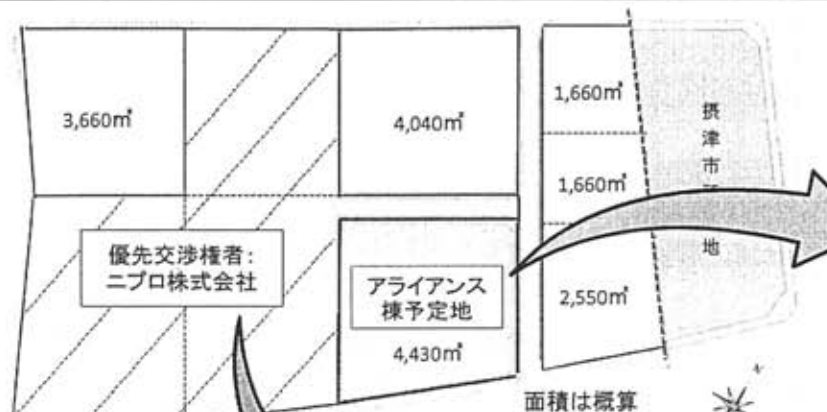


#### 利便性向上・価値創造機能

- ・パークの結節点であること等から利便性向上に資する機能に適しています。また、様々な連携やオープンイノベーションが促進される等、価値創造の機能にも適しています。

# 健都イノベーションパーク

- 「健康と医療」をキーワードに、先端的な研究開発を行う企業等の研究施設を集積させ、国循を中心とする複合医療産業拠点の形成を図る。
- フラグシップとなる企業としてニプロ株式会社を選定(2021年度 操業開始予定)。国立健康栄養研究所の移転に向けて準備中(2019年度中 移転開始予定)。残り画地は今後公募予定。



国立循環器病研究センター  
岸辺駅方面



(鳥瞰パースイメージ)

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所  
国立健康・栄養研究所  
National Institute of Health and Nutrition



(写真は現在の建物)

#### 【アライアンス棟の整備・運営】

- アライアンス棟は民間事業者が整備・運営
- 健栄研以外にも、レンタルラボ・オフィスを整備する予定
- 入居企業の交流促進の場も提供

# 国立健康・栄養研究所の現状と沿革

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所  
**国立健康・栄養研究所**  
 National Institute of Health and Nutrition

## 研究所のミッション

1. 食事・栄養と身体活動・運動の研究を通して国民の健康寿命の延伸と健康格差の縮小に貢献
2. 健康・栄養や健康食品に関する正しい情報を提供し、国民の安心・安全確保に努める
3. 国民健康・栄養調査や食品の成分分析等、国の仕事に貢献

身体活動  
運動

健康の  
維持・増進

栄養  
食事

食品の機能  
安全性

健康寿命の  
延伸に  
貢献

医薬基盤・健康・栄養研究所へ改組  
医薬基盤研究所と統合し、さらなる国民健康の向上に寄与

国立健康・栄養研究所に改称  
栄養/食品と運動の包括的研究機関に

内務省栄養研究所として設立

1920

## 100年の歴史

1989

2014

2015

WHO協力センターに指定



健康政策に直結した調査・研究  
 ・国民健康・栄養調査の集計  
 ・食事摂取基準の活用推進  
 ・運動指針等の策定・改定用のエビデンス  
 ・栄養表示の信頼性確保  
 ・食品・栄養・身体活動に関する情報発信

健康科学分野の基礎・応用研究  
 ・生活習慣病の原因解明と予防法の開発  
 ・「健康食品」の有効性・安全性評価  
 ・エネルギー・栄養素の適切な摂取法

栄養関連ヒト研究論文数において  
 我が国トップの業績  
注：世界における数値は国際標準化された論文データベース(JST/JSTa)による。

# 国立健康・栄養研究所の健都への移転

## 1. 国立健康・栄養研究所の大阪府への移転に関する方針（概要）【平成29年3月31日】

### (1) 移転先の施設

健都イノベーションパークに建設される民間賃貸施設とする。

### (2) 移転スケジュール

平成31年度中を目標に移転を開始し、速やかに全部移転を進める。ただし、移転に伴い増加が見込まれる研究所の運営上の負担に対する協力のあり方について、関係者間で協議・調整し、合意することを条件とする。

## 2. 国立健康・栄養研究所の北大阪健康医療都市への移転に伴い増加が見込まれる運営上の負担への対応に関する方針（概要）【平成30年1月31日】

### (1) 厚生労働省・法人の方針

- ・ 健栄研の移転に伴い必要となる設備等の費用をはじめ、移転先となる民間賃貸施設での長期的・安定的な運営に資するよう、法人に対して必要な支援・措置を行う。
- ・ 法人は、健栄研の健都への移転を機に、健康・栄養分野における産学官連携の拠点となるよう、受託研究の増加等必要な取組を行う。

### (2) 大阪府の方針

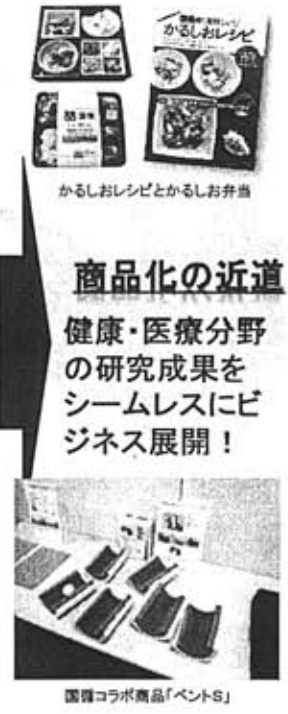
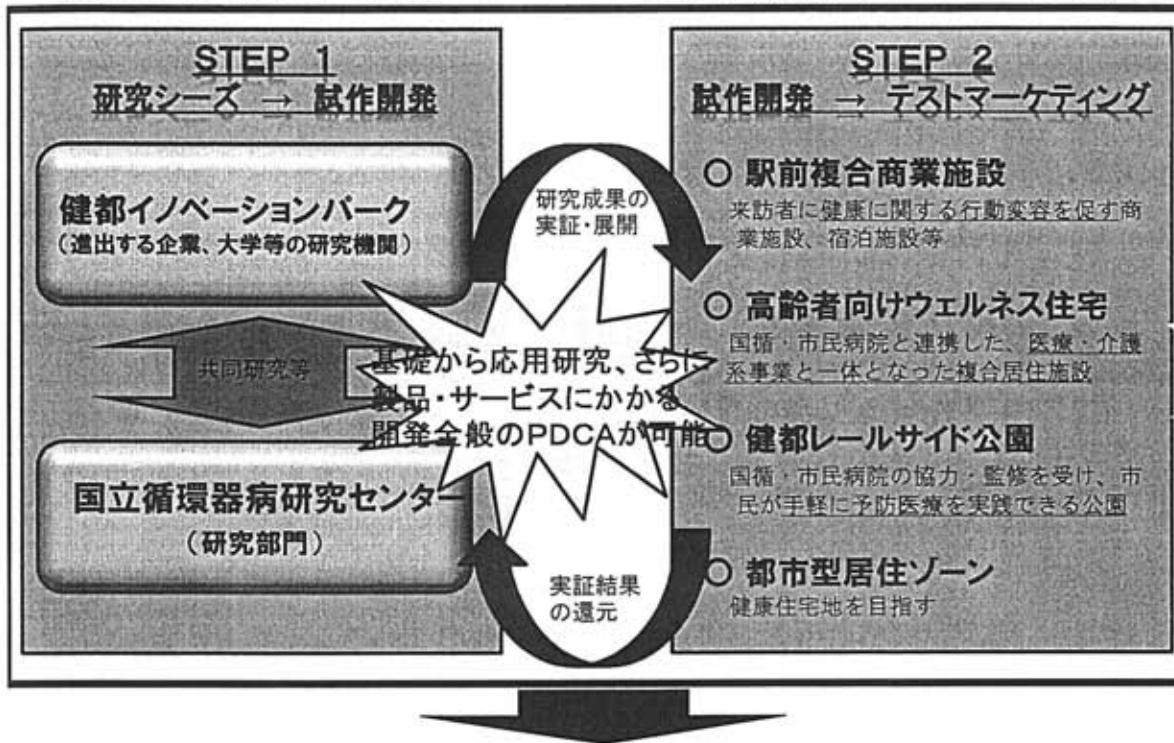
- ・ 健栄研が産学官連携の拠点となるために必要となる設備等の費用に対する補助、委託等連携事業の実施、当該事業の遂行や円滑な移転のための人的支援など必要な支援・措置について具体化を進める。

### (3) その他

- ・ 上記1、2を踏まえ、厚生労働省・法人及び大阪府は、吹田市、摂津市とともに、今後、両市が行う応分の負担の内容について、協議を進めるものとする。

北大阪健康医療都市には、研究開発や試作品製造を行う企業や研究機関と、商品やサービスを利用するユーザーやフィールドが共存。

循環器病予防関連の商品・サービスにかかる研究やテストマーケティングが容易に可能。



市域を越えた様々な企業、大学等との連携も期待される。

## 駅前複合施設 (JR西日本)

### 概要

- JR岸辺駅前0.8haにて、「健康・医療のまちづくり」等の核となる、駅前にふさわしい魅力的な生活利便機能等や医療・健康増進機能の導入が期待される複合商業施設を建設
- 当該土地(保留地)の権利所有者であるUR都市機構が、事業企画提案内容と入札額を総合的に評価する「総合評価方式」により公募を実施し、譲受事業者を選定

提案募集期間 平成26年 9月10日 ~ 同年12月25日  
 申込受付期間 平成26年12月24日・同年12月25日  
 予定事業者決定 平成27年 2月23日 → 譲受事業者：JR西日本

### 公募条件

- ① 必須機能
  - ・ 生活利便機能(スーパーマーケット等)
  - ・ 医療・健康増進機能 (循環器病の予防と制圧に資する健康関連施設・サービス等)
- ② 提案を期待する機能
  - ・ 宿泊機能
  - ・ 会議・研修機能
  - ・ 教育文化機能
  - ・ 環境まちづくりに資する提案 等

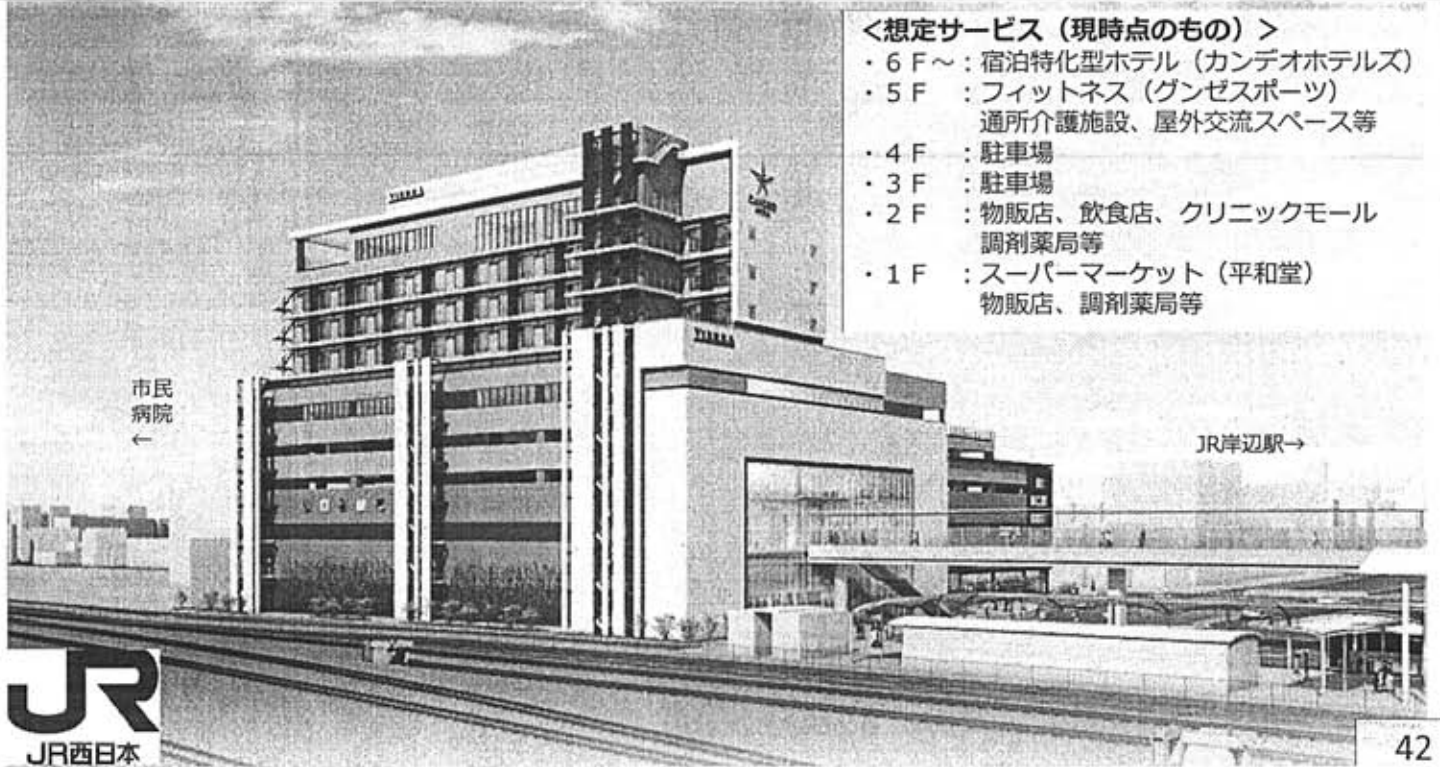
### 予定される機能及びサービス(例)

- トータルライフサポートステーション  
健康・医療サポート+市民生活サポート
- ・ 国循、市民病院等と連携した健康イベント等の実施
  - ・ 健康メニューを提供する飲食店
  - ・ 「かるしお」レシピを生かした弁当・惣菜の販売
  - ・ 総合型フィットネスクラブ
  - ・ 国循、市民病院を補完する地域医療機関
  - ・ 様々なニーズに対応できる宿泊特化型ホテル

- 駅前にふさわしい魅力的な生活利便機能等や医療・健康増進機能を有する、まちの「トータルライフサポートステーション」として複合商業施設を建設。
- 自然と楽しく来訪者に対し健康に関して行動変容を促すとともに、「住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム」の構築に資する（平成30年(2018年)11月開業）。

＜想定サービス（現時点のもの）＞

- ・ 6F～：宿泊特化型ホテル（カンデオホテルズ）
- ・ 5F：フィットネス（グンゼスポーツ）  
通所介護施設、屋外交渉スペース等
- ・ 4F：駐車場
- ・ 3F：駐車場
- ・ 2F：物販店、飲食店、クリニックモール  
調剤薬局等
- ・ 1F：スーパーマーケット（平和堂）  
物販店、調剤薬局等



健都2街区高齢者向けウェルネス住宅整備方針

策定の趣旨

- 吹田市では、北大阪健康医療都市における健康・医療のまちづくりの動きを踏まえ、更に加速化させるべく、今後、緑のふれあい交流創生ゾーン2の土地（東側約4,000㎡）において高齢者向けウェルネス住宅を整備※。
- 当該住宅に求められる機能等を明確にするため、整備方針を策定。

※50年間の一般定期借地契約により民間事業者が整備、維持管理・運営。

基本的な考え方・特徴

- 当該住宅に居住する全ての人々が、できる限り健康の保持・増進に努め、生きがいを持ち、自分らしく、安心安全で豊かな生活を送ることができるという基本的な考え方をプラットフォームに据え、3つの特徴を持つ住宅環境のモデルケースとして、その整備を目指す。

**特徴①：生活習慣病予防や介護予防を特に意識したウェルネス機能**

- 自立層から要介護者まで、様々なライフスタイル・状態像の者が、健やかに安心して暮らせる住宅環境の整備を行う。
- 住宅機能については、国立循環器病研究センター等の医学的知見等を得ながら、
  - ・ 生活習慣病予防、介護予防の視点を重視した建物内施設・設備の導入を推進するとともに、
  - ・ 様々なサービス提供や支援を組み合わせることによって、
 より効果的に日常生活の中で健康寿命の延伸の実践等を図ることができる環境の形成を目指す。

**特徴②：地域包括ケアシステム機能（医療・介護の連携した提供等）**

- 多様なサービス事業所を配置し、当該住宅の居住者（※1）に対し、通い・訪問・泊まりといった様々なサービス形態により、介護を中心に看護や予防、薬剤管理といった様々なサービスを、オーダーメイドで組み合わせる等、居住者の自立を支援し、社会参加につながるようなサービスの提供（※2）を目指す。
  - （※1）事業所によるサービス提供は、当該住宅のみならず、周辺地域に対しても積極的に行い、地域のサービス拠点となるものとする。
  - （※2）住宅の見守り機能や、事業所を中心としたサービス提供により、独居や認知症にも対応することを目指す。

**特徴③：健都内外の関係機関等との連携による付加価値機能**

- 国立循環器病研究センターをはじめとする北大阪健康医療都市の各事業主体との円滑な連携を模索し、健都2街区高齢者向けウェルネス住宅はもとより、まち全体の付加価値を高める機能の導入を目指す。

- 居住者が、できる限り健康の保持・増進に努め、生きがいを持ち、自分らしく、安心安全で豊かな生活を送ることができるという基本的な考え方の下、超高齢化社会における住宅環境のモデルケースとして整備。
- ①生活習慣病予防や介護予防、②医療・介護の一体的な提供、③健都内外との連携による付加価値といった3つの機能を有する。(平成31年(2019年)12月以降 順次事業開始予定)。

## <建築概要>

- ①構造規模：RC造 地上7階建
- ②敷地面積：4,172.20㎡
- ③延床面積：9,308.70㎡

## <主要用途(予定)>

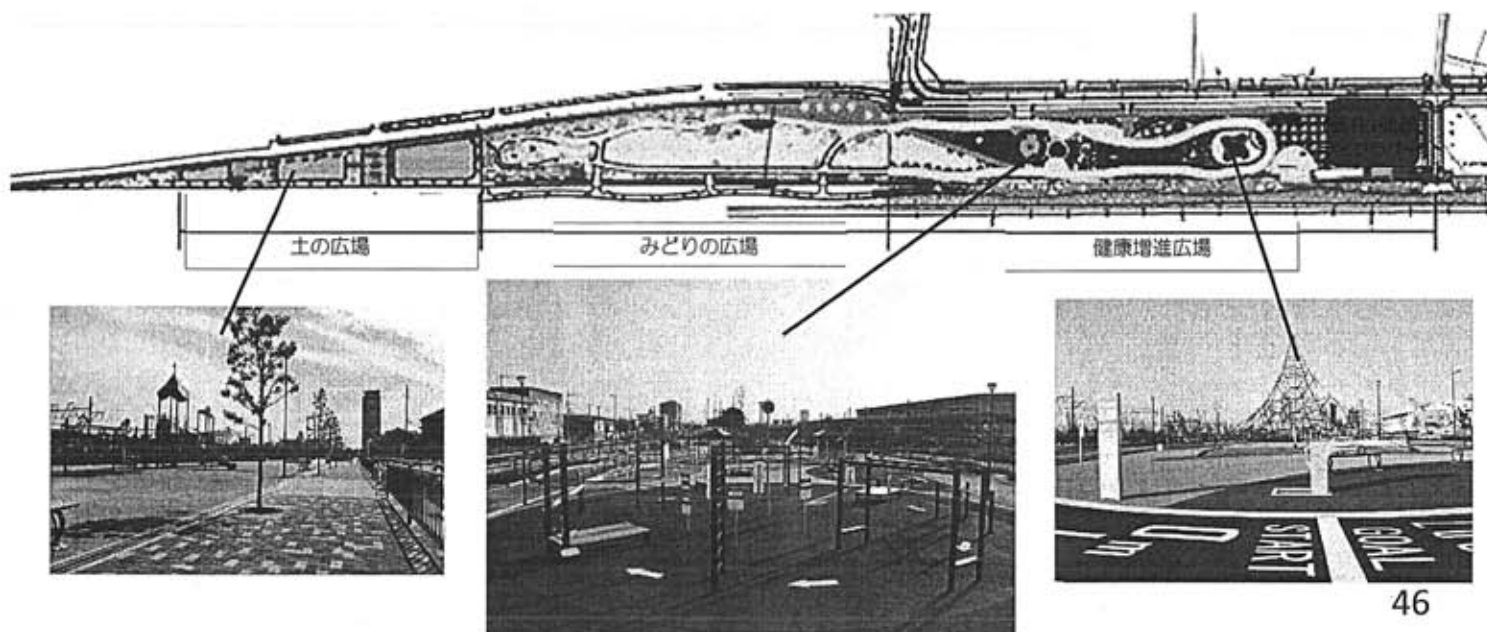
- ①一般賃貸住戸44戸【6～7階】
- ②サービス付き高齢者向け住宅54戸【3～5階】
- ③介護事業所(定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所等)【3階】
- ④保育(病児・病後児保育施設等)、学習、医療、フィットネス等【2階】
- ⑤物販店等【1階】



44

## 5 健都レールサイド公園

- 面積 約22,600㎡。土の広場（約5,500㎡）、みどりの広場（約9,000㎡）、健康増進広場（約8,100㎡）の3つのエリアにより構成。
- 健康増進広場は、市民自ら予防医療を実践できる場として、国立循環器病研究センター・市立吹田市民病院の監修の下、27基の健康遊具を配置するとともに、複数のウォーキングコースを設置。
- グループでも健康づくりに取り組める場であり、年間を通じて運動イベントなどを開催。



46

## 北大阪健康医療都市 健康増進広場整備方針(平成27年12月策定)

- 目的:「健康・医療のまちづくり」基本方針等に基づき、健康増進広場のコンセプト、整備方針及び整備後の展開等を定めるもの。
- 特徴:国立循環器病研究センター等の協力・監修を受けながら市民自ら予防医療を実践できる場であることをプラットフォームに据え、①主体的な健康づくりの促進②個人・グループでの健康づくりの促進③年間を通じて運動イベントなどの開催④複数のウォーキングコースの配置 を特徴とする。
- コンセプト:自然に健康を「意識」する公園、「楽しみ」ながら健康になれる公園、健康のコツが「学べる」公園

**「健康・医療」をキーワードに多世代が集い、交流できる公園**

### 健康運動ゾーン

概要:身近な緑とふれあえる空間で、市民自らが予防医療や健康づくりを行うことのできるゾーン

#### 【主な施設】

- ・メディカルウォーキングコース  
公園のシンボルとして、利用者の目的に応じて国立循環器病研究センター等の医学的根拠に基づくウォーキングコースを複数設定。足に優しい配慮(歩道幅員や路面素材)。公園にとどまらず、周辺との回遊性も確保。
- ・メディカル広場  
開放感のある多目的広場  
多種多様な健康遊具等の設置

### 健康交流ゾーン

概要:多世代が健康をキーワードに交流し、仲間づくりや生きがいを見つけ、彩りや食・農の体験により、楽しみながら健康を維持し、交流を促進するゾーン

#### 【主な施設】

- ・交流広場  
様々なイベントを開催し、多様な人がふれあえる交流広場
- ・コミュニティ育苗場  
種から花づくり等を行う育苗場、食や農のきっかけづくり

### 健康学びゾーン

概要:多世代の市民が、健康づくりを通して、ふれあい、楽しみながら学びとにぎわいを創出するゾーン

#### 【主な施設】

- ・アスレチック遊具
- ・パーク施設  
公園事務所、トイレ、健康・スポーツ、植物、児童書等の図書機能、健康カフェ、オーブンデッキ(ゼロ系新幹線の活用)ヘルスチェックコーナー、屋内運動エリア

### 整備後の展開

整備後、医療関係者との連携や柔軟な発想による運動プログラム及び健康イベント等の企画や開催を行う等、効率的で効果的な施設運営や質の高い管理を継続的に行うため、


**パーク施設や健康増進広場を含む公園全体の一体的な運営及び管理は、指定管理者制度の導入を目指す。**

※ 学識、医療関係者、専門家で構成された検討会を設置し、意見・助言を反映。



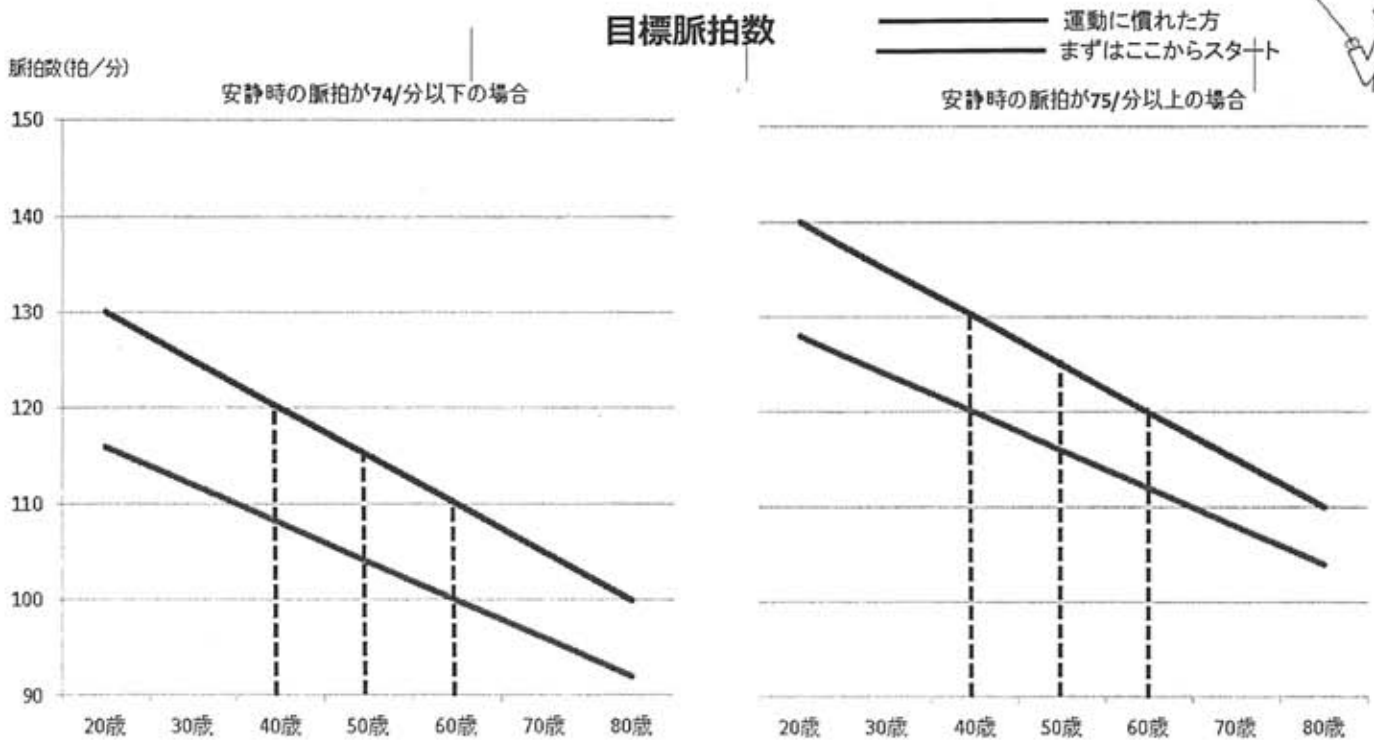
## 循環器病を予防するウォーキング (国循監修)

- ウォーキングは、年齢や体力に応じて運動強度を調整できる有酸素運動です。適切な方法で長期間継続することにより、循環器病を予防できます。
  - ・ 中程度の運動強度（全身持久力の50%程度）でおこなう。
  - ・ 自己検脈で運動強度を確認する  
自己検脈ができない場合は、自覚的に「ややきつい」と感じる強度でおこなう。
  - ・ 運動時間は1回30分～60分（10分ずつに分割しても可）。
  - ・ 週3～5回の頻度でおこなう（できれば毎日）。
  - ・ 開始前の準備体操と、終了時の整理体操を必ずおこなう。
  - ・ 歩幅や腕の振りを大きく、かかとから着地し、つま先は地面をけるように、全身を使ってリズムよく歩く。
- 運動強度は、脈拍数もしくはきつさの程度（自覚的運動強度）で確認できます。中程度の運動強度に相当する脈拍数は、次スライドのグラフを参照してください。自覚的に「ややきつい」とは、「軽く息がはずむ」もしくは「会話をしながらでも継続できる」強さです。⇒ 詳細は次のスライドで
- 運動強度は、運動経験の有無や体調により異なるので、軽めから開始して徐々に上げるのが基本です。
 

公園内のサインにも記載しています
 
- 血圧や心臓の薬は、脈拍数に影響を与えるものがありますので、循環器系の薬を服用中の方は、運動の方法を主治医の先生に必ず確認してください。 48

## 循環器病を予防するウォーキング (国循監修)

- STEP 1 : 15秒間自分の脈拍を数える → 4倍して1分間の値に（74以上or未満）
- STEP 2 : グラフを参照し、ご自身の年齢に合った目標の脈拍数を確認
- STEP 2 : 運動後10分で15秒間自分の脈拍を数える



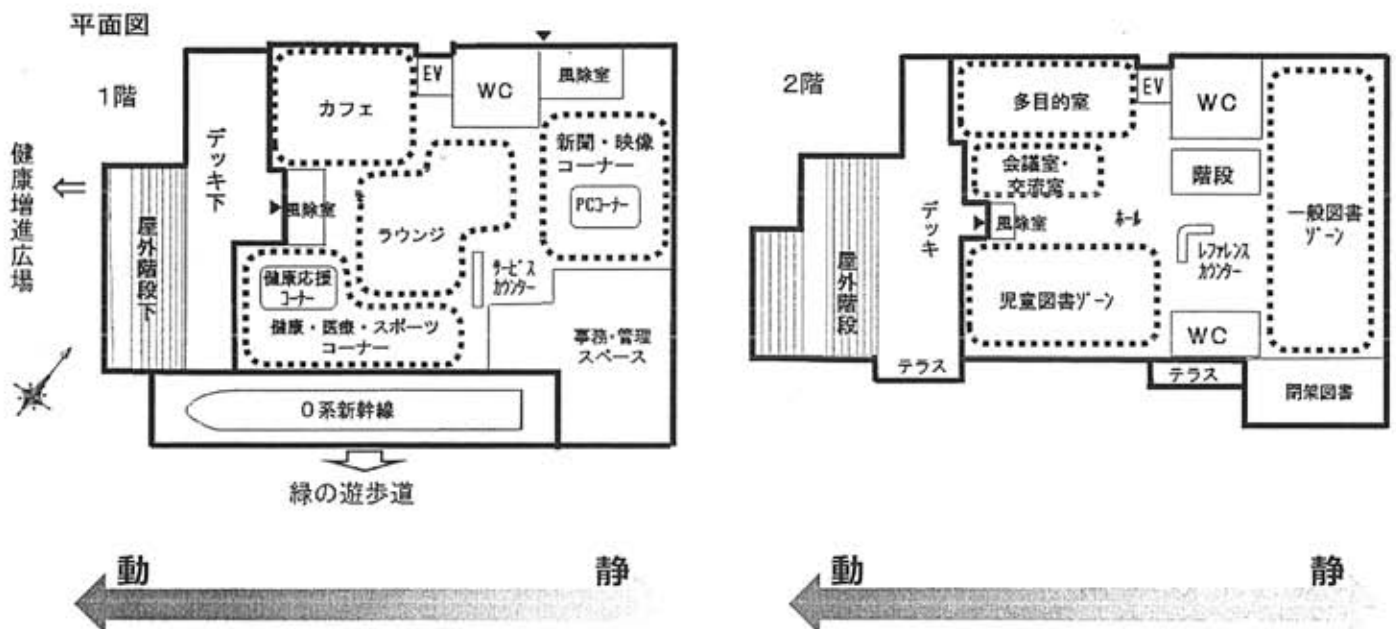
# 健都レールサイド公園（健都ライブラリー）

- 健都ライブラリーは、①健都レールサイド公園における積極的かつ継続的な健康づくりを支援する拠点、②多世代が身近に利用でき、図書館機能を更に多機能化させた施設として整備。
- 健康に、①気づき ②楽しみ ③学べる の3つの柱による多世代が集い、交流し、健康寿命延伸（生涯活躍）につながる場を目指す（2020年11月オープン予定）。

※ イメージ図等は設計者と本市の協議等において変更する場合があります。



## 健都ライブラリーの機能・ゾーニング案等



### 主な機能

- (1)健康、医療、スポーツに特化した専門コーナー
- (2)動いて、測って、調べて予防する健康応援コーナー
- (3)健康体操や健康講座など各種講座ができる多目的室
- (4)居心地のいい読書環境の提供
- (5)吹田メモリアルとしての機能展開

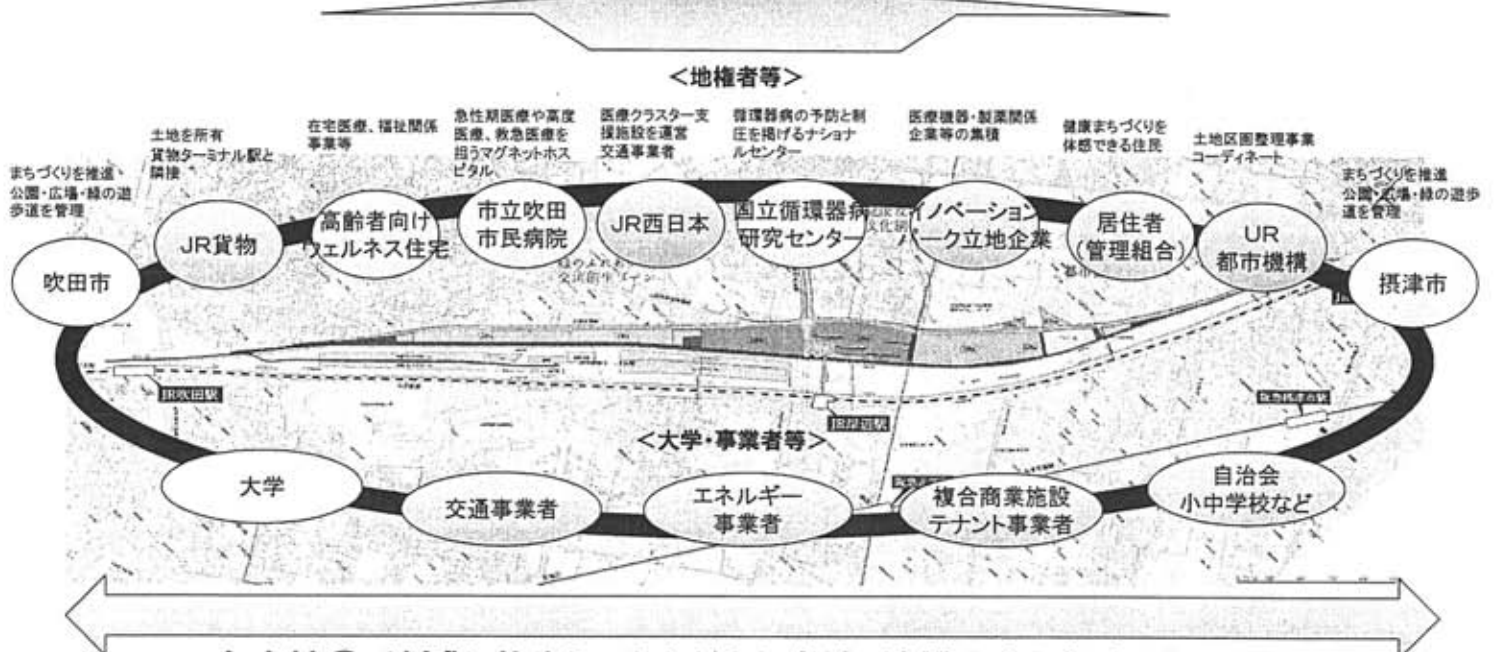
### 周辺の状況

- (1)JR岸辺駅から約1,200m、JR吹田駅から約1,900m
- (2)市道天道岸部線(幅16m:車道3.5m×2 歩道3×6m)
- (3)健康増進公園内、建築面積 約1,450㎡、延床面積 約1,988㎡
- (4)図書館、カフェ、多目的ルーム、会議室、ゼロ系新幹線、駐車場19台
- (5)想定来館者数 年間11万人(図書館機能のみ)

## 6 今後の展望

### 健都の今後の展望

**方向性②:国内、世界へ、健康・医療まちづくりのモデル拠点としてPR**  
 (キーワード例)ナショナルセンター/最先端・モデル(健康・医療、環境・低炭素、エリアマネジメント)  
 /全国初、世界/ブランド/高付加価値・価値創造...



**方向性①:地域と共生し、さまざまな交流・連携を生む拠点としてPR**  
 (キーワード例)各施設の認知度向上/現地の認知度向上/健康を体験・実感/憩い・潤いを楽しむ/まちとしての一体感/安全・安心/福利厚生/満足度向上/イベント...

# 北大阪健康医療都市(健都)のポータルサイト



サイトURL → <http://kento.osaka.jp/>

健都 or 北大阪健康医療都市

検索

国立循環器病研究センターを中心とした  
産学官民連携による医療イノベーション拠点

健都

19:01  
2016/01/21